

■滝口修造 美術批評家。早くからシュルレアリスムなど前衛芸術の発掘・紹介に努め、〈敗戦〉後の文化形成の一端を担った。

たきぐちしゅうぞう

日比谷公園・1903＝ 富山県生れ。

日露戦争終・1905＝ 2歳：

明治天皇没・1912＝ 9歳：

原敬首相暗殺1921＝18歳：

円本時代始・1926＝23歳： 慶応義塾大学英文科在学中、イギリスより帰国した西脇順三郎に刺激され、シュルレアリスムに傾倒、
ブルトンと文通して、

海軍軍縮条約1930＝27歳：*「超現実主義と絵画」を翻訳し、モダニズムの風潮をこえた“言語の極北”をめざす詩的実験をつづける。
満州事変・ 1931＝28歳：慶大英文科卒業後、PCL(写真化学研究所)で映画制作に従事。

日中戦争始・1937＝34歳：阿部展也(芳文)と共著の詩画集「妖精の距離」、
健保+総動員 1938＝35歳：戸坂潤の要請で『唯物論全書』の1冊として出した「近代芸術」で青年美術家の中心となる。
第二次大戦始1939＝36歳： 大政翼賛会・1940＝37歳：*世界初の「ミロ論」を執筆、
日米開戦・ 1941＝38歳： 福沢一郎とともに共産主義シンパとして検挙され、8ヵ月後起訴猶予で釈放された。

敗戦・ 1945＝42歳：

戦後は、
極東裁判決・1948＝45歳：

朝鮮戦争始・1950＝47歳：*以降、{読売新聞}の美術時評を担当、
独立回復・ 1951＝48歳： 以降、タケミヤ画廊企画展に多くの前衛新人をとりあげ、総合芸術集団(実験工房)を結成。

テレビ放送始・1953＝50歳：「今日の美術と明日の美術」、

55年体制始・1955＝52歳：「16の横顔」、

なべ底不況・1957＝54歳：
インフレーション・1958＝55歳： ベネチア・ビエンナーレ代表として渡欧、ダリ、デュシャン、ブルトン、ミショーらと会見。
美智子妃・ 1959＝56歳：「幻想画家論」の他、リード、カスーらの翻訳を刊行。
安保闘争・ 1960＝57歳：帰国して、インキの滴り、デカルコマニー、紙の焼きこがし作品で個展を数回開く。

TV宇宙中継始1963＝60歳：評論集「点」*以後、新聞・雑誌への執筆をやめ、役職、審査員を辞退し、著述は個人あての断章、個展への
序文に集中。

大学紛争始・1965＝62歳： 以後3年にわたり、赤瀬川原平の千円札裁判で特別弁護人をつとめる。

いざなぎ景気1966＝63歳：

美濃部都知事1967＝64歳：戦前の詩作の集成「滝口修造の詩的実験1927 - 1937」刊。

霞ヶ関ビル・ 1968＝65歳：「マルセル・デュシャン語録」、

大阪万博・ 1970＝67歳：ミロとの詩画集「手づくり謠」、

石油ショック1973＝70歳：

クランプトール事件1975＝72歳：

革新大敗北・1979＝76歳： 没した。

平凡社百科事典、